



坂の上の希望

JOHOKU NEWS

城北高等学校 2026 年 5 月号 TEL:0968-44-8111 HP⇒http://www.johoku-hs.ed.jp

Web も更新しています!!



Instagram も是非、ご覧ください!!



三つの命と城北スピリッツ



城北高等学校

校長 竹下 恒範

高校課程「二百六十九名、看護専攻科三十八名の新生の皆さん」ご入学おめでとうございます。高校生の皆さん、これからたくさんを経験し、豊かな人間性を身に付け、家族や友達に感謝し、三年後の進路実現に向けて、最善の努力をしてください。看護専攻科の皆さん、実習や毎日の学習を通して友達と励まし合いながら、最大の目標である三年後の看護師国家試験合格を全員で勝ち取ってください。

さて、皆さんは、人生に三つの命があることを知っていますか。

一つ目は宿命です。宿命は、生まれたときにすでに決まっている条件や前提のようなもので、生まれた時代や国、親、体質や先天的な気質など、自分の力では変えにくい「与えられた条件」としての命と捉えられます。

二つ目は運命です。運命は、命を運ぶと書きます。どのように運ぶかで人生は変わります。つまり、どんな人と関わるか、どんな仕事や環境を選ぶか、その時々でどう行動するかなど、選択や行動、人との出会いによって運命は変わり、日々の地まぬ努力の積み重ねで、人間性が磨かれ善い方向に向かいます。

三つ目は使命です。使命は、命を使うと書くように、自分が本当にやりたいこと、人や社会に対して果たしたい役割、才能や経験をどう活かすかなど、自分の命を何のために使うかというテーマや役割を指す言葉として使われます。つまり、「自分は何のために生きるか」を自覚し、行動した時に見えてくるものが使命だと考えます。

これらのことを踏まえると、新生の皆さんには、宿命という土台の上で、運命をより良く選択しながら、何のために生きるかという人生の王道とも言える「使命」についてしっかり考えてもらいたい。城北高校で自分が見たいことは何か。何をするために城北高校に入学したのか。命の使い方を考えてもらいたい。城北高校には、「自分のことより先ず人のことを考える」という城北スピリッツがあります。自分のことより人のことを考えて行動することで、人は成長するし、見えなかったものが見えるようになり、高校生活がより充実したものになります。ぜひ、城北スピリッツにつながる命の使い方を考えてみてください。

今年度も、全教職員で、生徒・学生の自己実現、進路実現のために全力を尽くしてサポートしてまいります。保護者の皆様のご理解と協力をどうぞよろしくお願いいたします。



全国大会で大活躍

ボクシング部
全国大会 第3位



令和八年三月二十四日から六日間、山梨県で第三十七回全国高等学校ボクシング選抜大会が行われました。スポーツ科学コース三年の秋吉優愛さん(阿蘇西原中)が、女子の部バンタム級において全国第3位の成績を収めました。



令和八年度第五十九回入学式は、たくさんの方々と保護者を迎えに行われ、本校生徒は総数七百七十七名となりました。新生は一人一人担任から名前を呼ばれ、しっかりとした返事で応えました。その姿勢からは、高校生活への希望が感じられました。

新生代表の普通科特進コースの西田悠さん(鹿本中)は、「この坂を上げれば希望がある」というスローガンのように、どんな時も諦めずに自分の夢をつかみ未来を切り開いていく人間になる事を誓います」と誓いの言葉を述べました。また、看護専攻科新生代表の堤舞桜さん(立花中)は、「思いやりの心と誠実さを大切に、共に学び合う仲間と切磋琢磨しながら目標実現に向けて精進することを誓います」と誓いの言葉を述べました。

新生の誓いの言葉に込め、生徒会長の藤井涼香さん(植木北中)は、「皆さんが安心してやりたいことに挑戦し続けられるように私たちがサポートします。看護専攻科一年の村上さくらさん(鹿本中)は、「私たちが在校生も、皆さんが安心して学びを深めていけるよう精一杯支えていきます」と、先輩として頼もしい言葉で新生を迎えました。

これから、新生は、普通科(スポーツ科学コース・普通コース・特進コース)、調理科、医療福祉科、看護科・看護専攻科のそれぞれの科やコースで、新しい仲間と実の多い高校生活を送っていきます。

入学式 希望を胸に

チアダンス部
全国大会 第4位



三月二十八日、USA Nationals 2026が千葉市幕張メッセで行われました。高等学校編成Song/Pom部門Medium Aに出場したRaidance Novaが第4位の成績を収めました。九州大会で第1位に輝き、臨んだ全国大会でした。

九州大会出場

男子バレーボール部
熊本県 準優勝



「一瞬を一生の思い出」感動の体育大会

五月九日(土)、第五十九回体育大会が行われました。たくさんの方々と保護者の参加がありました。生徒全員が力を合わせて、体育大会を成功させるために一生懸命取り組みました。また、「We can make it! Lasting Memory.」というテーマ、この一瞬を一生の思い出に「一瞬を一生の思い出」をテーマに、三つの分団が競い合いました。

女子ダンス、男子団体競技、スポーツ科学コースのパフォーマンス発表も見事でした。部活動紹介・パフォーマンス、部活動リレーも盛り上がりました。そして、分団パフォーマンスの演舞や分団対抗リレーに盛大な拍手が送られました。青団は普通科普通コース三年の瀬戸幸之介さん(山鹿中)、黄団は普通科スポーツ科学コース三年の竹野桃花さん(菊池南中)、赤団は調理科三年の田中蒼人さん(立花中)が分団リーダーを務めました。五月の空に各分団の絵巻板が美しく映えました。

体育委員長の森本颯さん(北部中)は、「全校生徒の誰もが、心から楽しめる体育大会にします!」と意気込みを語り、体育大会を大成功させました。

競技力を高めるとともに、心身ともに健康で、

社会に貢献できる人材を育てる

普通科スポーツ科学コース 主任 川口 敦

城北高等学校スポーツ科学コースは、「日本国内外で活躍できるトップアスリートの育成」と「社会の持続的な健康を支えるリーダーの養成」という二つの大きな柱を掲げ、歩みを進めています。昨年度は、プロ野球の舞台で活躍する卒業生がさらなる飛躍を遂げるなど、本校で心身を磨いた逸材が日の丸を背負って戦いました。こうした先輩たちの姿は、在校生にとって大きな希望であり、日々の厳しい練習に打ち込む原動力となっています。

トップアスリートとして輝く者に共通するのは、単なる身体能力の高さだけではありません。自己を厳しく律する高い意識、困難な局面でも揺るがない精神力、そして周囲と調和し、感謝を忘れない豊かな人間性です。私たちは、技術や体力の向上はもとより、こうした「人間力」の育成こそが教育の根幹であると考えています。競技を通じて得られる成功や挫折の経験は、生徒たちが将来どのような道に進もうとも、一生を支えるかけがえのない財産となるはずです。一方で、スポーツ科学コースの使命は、競技の枠に留まりません。現代日本が直面する超高齢社会において、スポーツの持つ役割はかつてないほど重要になっています。昨年度から継続している市民参加型イベント「マロンウォーク」は、他学科との連携をさらに深め、地域の方々の健康意識を高める場として定着しました。また、行政と連携した「やまがとろうこエクスサイズ」の普及活動や筋力強化トレーニングの指導を通じて、生徒たちは高齢者の方々と直接触れ合い、自らの学びが社会の役に立つ喜びを実感しています。さらに本年度は、これまでの小学校でのスポーツ教室に加え、幼稚園や保育園での授業体験を本格的に展開していく予定です。幼少期から体を動かす楽しさを伝えることは、生涯にわたる健康の礎を築くだけでなく、次世代のアスリートを育む土壌にもなります。子供たちの笑顔を引き出し、運動への意欲を育む経験は、教える側の生徒たちにとっても、深い学びと成長の機会となっています。

スポーツには、人を動かし、地域を元気にし、世界をつなぐ力があります。本コースはこれからも、伝統を大切にしながらも時代の要請に応え、進化し続けます。私たちの目標は、単に勝利を追い求める集団ではありません。心身ともに健康であり、スポーツで培った力を社会に還元できる、志の高い人材を世に送り出すことです。未来を担う生徒たちが、スポーツを通じて自身の可能性を切り拓き、地域や国際社会に活力を与える存在となるよう教職員一同、一丸となって指導に邁進してまいります。城北高等学校スポーツ科学コースの新たな挑戦にどうぞ期待ください。



「普通」の魅力を「唯一」の魅力に！

普通科 普通コース 主任 浜元 美千代

普通科普通コースでは、①キャリアデザイン、②進路自由設計、③進路実現力の獲得、④情報スペシャリストになるを4つの柱として活動を進めています。

資格取得においては、日々の学習や自主学習の成果として、ビジネス文書実務検定およびビジネス計算実務検定の1級合格者は延べ14名（昨年度3年生43名中、重複を含む）、2、3級も1年生から3年生まで多数の生徒が合格という高い成果を上げました。探究学習では、山鹿市、熊本大学と連携して地方創生をテーマとした取り組みを行っています。昨年度ある3年生たちは地域連携の取組として、地域調査活動を起点に商店街の平日の来客数増加を目的としたイベントを、生徒主体で実施しました。さらに、1人1台ノートパソコンを導入活用し、論理的思考力や情報活用能力をはじめとする多くの能力を身につけ、自ら社会課題を解決しようとする態度と実践力を持った人材を育てます。



深い学びの実践にふり、難関大学現役合格

普通科 特進コース 主任 白石 学嗣

特進コースでは、少人数制を活かしたきめ細かな指導により、一人ひとりの進路実現を力強く支援しています。個別最適化された学習指導を重視し、難関大学への挑戦やスタディサプリを活用した課題配信を通して、確かな学力の定着と応用力の養成を図っています。こうした取り組みの成果として、昨年度は鹿児島大学をはじめとする国公立大学への現役合格を達成しました。

さらに、英語検定、数学検定、漢字検定など各種検定の取得にも力を入れ、学力の客観的な定着を促進しています。また、探究的な学習として山鹿市の魅力を発信するプロジェクトに取り組みとともに、A・L・Tや外国人留学生との交流を通して、実践的な英語運用能力と異文化理解を深化させています。これらの学びを通して、大学入試突破にとどまらず、将来社会を牽引する人材として必要な資質・能力の育成を目指しています。



感性豊かな 人として、必要とされる人材を育てる

調理科 主任 橋本 希

今年度の調理科は、新たに七十六名の新入生を迎えてスタートしました。「卒業と同時に調理師免許を取得できる」調理科では、調理科スタッフによる厳しくもあたたかい一貫した教育のもと、「食を通して人を幸せにする、笑顔にする」ことを実践します。授業では座学・実習ともに共通実践事項（挨拶、礼儀、服装、提出）の徹底を重視し、仲間とともに切磋琢磨して成長する環境が整っています。昨年度は卒業発表会や校内フルコース発表会、料理実習ももてなしをすることができました。著大な特別講師陣による授業も充実しており、人として大切な「感性」を育てることも力を入れています。「食を通して私たちにできることは何か」を探究し、イベントに向けた商品開発や販売実習、地域活性化プロジェクト推進にも積極的に取り組んでいます。

豊かな活動を通して、仲間とともに豊かに成長し、卒業後「あなたがいてくれてよかった」と言ってもらえるような人材育成を続けていきます。



「チーム福祉」で共に育ち、心を通わせる未来へ

医療福祉科 主任 梅本 洋子

福祉の本質は「幸せ」にあります。医療福祉科が目指すのは、単に知識や技術を習得するだけでなく、誰かの心にとそと寄り添える温かな支援者の育成です。

学びの柱は、確かな土台をつくる「校内学習」と現場実習や地域のボランティア等の「校外学習」の両輪です。校外では、机上だけでは学べない「心に寄り添う支援」の難しさと喜びを学びます。また、机上で学んだ理論を、実際の現場で実践・応用することで生きた技術へと昇華させていきます。さらに、多様な世代の方々と交流し、人を知ること、豊かな人間力を育みます。

様々な経験を通して自らを磨き、進路実現へと繋げる一年。「チーム福祉」を言葉に成長の軌跡を描いていきます。

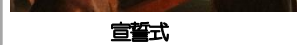


看護の学びを力に、知識・技術・心を育む新たな一歩

看護科 主任 宮口 結実子

「看護の学びを力に、知識・技術・心を育てる」というスローガンのもと、看護科の新しい一年がスタートしました。看護の基本となる知識・技術・姿勢を日々の授業で積み重ねています。学内で身につけた学びを基盤に、臨地実習や地域活動にも積極的に取り組み、看護の力を地域へと広げています。昨年度も、山鹿市の「さくら湯」にて、利用者の皆様への血圧測定を実施させていただきました。地域住民の方々との温かい交流は、技術の向上のみならず、看護の本質である「相手を想つ心」を再確認する貴重な経験となりました。

今年度は、生徒一人ひとりの「主体性・協調性」をさらに引き出すとともに、地域活動の場を広げ、地域社会における看護の役割をより深く探究していきます。



一人ひとりの「看護師になる」を全力サポート

看護専攻科 看護専攻科 主任 赤星 和美

看護専攻科は、一人ひとりの「看護師になる」を全力サポートし、全員が目標到達できる環境を整えています。最大の強みは、確かな実績です。令和七年度看護師国家試験100パーセント合格、助産師学校進学合格率は令和六・七年度の二年連続で100パーセント合格を達成しました。この高い成果を支えているのが、一人ひとりに寄り添った手厚い指導です。早期からの個別フォローや、ICTを活用した自立学習支援、さらに外部機関と連携した国家試験対策など、多角的なサポート体制を整えています。

また、山鹿市民医療センターとの包括的連携により、地域医療の最前線を肌で感じる学びも充実しています。臨床との合同演習も取り入れ、臨地現場を忠実に再現した演習により、実践的な「気づき・考え・行動できる力」を養っています。これからも、「看護を学ぶなら城北高校」と言ってもらえるような看護専攻科を目指します。

